

プロロジス、自動フォークリフト開発スタートアップ ハクオウロボティクスと資本業務提携

～インキュベーション施設「inno-base TSUKUBA」入居企業との初提携～

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO: 山田 御酒)は、自動フォークリフト開発・販売のスタートアップ企業である株式会社ハクオウロボティクス(本社:東京都荒川区、代表取締役 CEO 鈴木 智広、以下ハクオウロボティクス)と資本業務提携を締結したことを発表しました。

ハクオウロボティクスは、プロロジスが運営するインキュベーション施設「inno-base TSUKUBA」の入居企業です。プロロジスでは「inno-base TSUKUBA」に入居する企業等、物流業界や物流施設と親和性のあるスタートアップ企業の事業成長支援に取り組んでいます。同施設入居企業との資本業務提携は今回が初めてです。

■ 提携の経緯と今後の取り組み : 9月の展示会、11月の販売開始に向けて支援を強化

ハクオウロボティクスは自動フォークリフトの開発・実証実験の場として2023年10月から「inno-base TSUKUBA」を利用しています。プロロジスはハクオウロボティクスへの支援として、PoC(製品の概念実証)協力企業の紹介や、神奈川県のマルチテナント型物流施設「プロロジスパーク横浜鶴見」での走行実験など自動フォークリフト「AutoFork」の開発支援を行ってきました。

プロロジスは、物流業界の課題を解決するソリューション開発に尽力しており、自動フォークリフトの普及が物流業界の省人化に寄与し「物流の2024年問題」への一助にもなることから、このたびの資本業務提携を決定しました。今後、プロロジスのネットワークを活かして製品化およびマーケティング支援等を強化し、自動フォークリフト普及を後押しします。

9月10日～13日に開催される「国際総合物流展2024」(東京ビッグサイト東1～8ホール)では、ハクオウロボティクスの展示ブースに「AutoFork」の実機が展示されます。また、11月には初号機の製品版が完成見込みであり、販売開始にあたってプロロジスが見込み顧客の紹介を行います。

■ 自動フォークリフト「AutoFork」の特徴 : 操作性・パレット認識技術・コストに競争優位性

ハクオウロボティクスの自動フォークリフト「AutoFork」は、納入当日からすぐに使えるシンプルさと操作性の高さ、パレット一括認識技術が特徴です。また、自動フォークリフト導入のハードルの一つがコストですが、「AutoFork」は一般的な自動フォークリフトと比べて低価格帯での販売を予定しており、多様な物流現場への適応が見込まれます。



自動フォークリフト「AutoFork」

- 操作性：通常の PC・タブレットによるルート設定に加え、人が操作した走行ルートを覚えて繰り返し走行できる機能を搭載しており、PC 作業なしでも利用可能。また、独自の制御技術により、機敏な動作性と±10mm の走行・停止精度を両立。その場合旋回も可能な機体で狭い通路での正確かつ迅速な作業を実現。
- パレット認識技術：複数の不整列に置かれたパレット位置を一括で認識する高精度の認識技術を搭載。作業時間の大幅な削減を実現。



■ インキュベーション施設「inno-base TSUKUBA」について

プロロジスが「プロロジスパークつくば 3」内で運営する「inno-base TSUKUBA」は、スタートアップ企業の事業成長を支援するインキュベーション施設です。小型オフィス、シェア倉庫、実証実験エリアを備え物流業界のみならず、最新技術の実証実験や新製品の評価・検証の場所を必要とするアーリーステージのスタートアップ企業 9 社が利用しています。

プロロジスは入居企業の製品開発やマーケティングの支援を行うほか、入居企業同士での技術連携も促しています。ハクオウロボティクスは、同施設の入居企業であり、ロボットと建物設備（エレベーター、自動ドア、セキュリティ）との連携システムを提供する株式会社 Octa Robotics（本社：東京都文京区、代表取締役 鍋島 厚太）と協働し、自動フォークリフト「AutoFork」と荷物用エレベーターとの自動連携を実証実験にも取り組みました。



■ 「inno-base TSUKUBA」入居企業（ハクオウロボティクスを除く）

株式会社 OctaRobotics	“ロボットを当たり前のインフラに”を企業パーパスとし、ロボットと建物設備の連携を可能にするシステムを開発提供。
株式会社 Yellow Tree	海外化粧品を専門とした輸入販売を軸とし、工場から使用者まで一括管理する「ONEON サービス」を提供。
株式会社 APICA	ドローンスマートテクノロジーを利用し、様々な社会課題の解決に貢献。
株式会社コピー	製造業・物流等のミッションクリティカル領域に説明・品質管理可能な AI を提供。

株式会社 LEALIAN	EV 用交換バッテリーを活用した、“分散型エネルギープラットフォーム”を創り出す。
安泰新エネルギー・ジャパン株式会社	太陽光発電所の支持部物である高強度で優れた架台を設計・製造、充実サービスを提供
株式会社 GoQSystem	複数モール展開の受注処理や在庫管理等、通販業務を一元管理できる「GoQSystem」を提供。
理想科学工業株式会社	「世界に類のないものを創る」プリンタメーカーのアセットを活用し、物流領域の社会課題解決に貢献。

■ 物流の社会課題解決をめざし、物流 DX 企業へ出資

プロロジスは、物流関連の社会課題の解決を図るため、先進的な取り組みに挑戦するスタートアップ企業との共同開発や出資を行っています。ハクオウロボティクス以外のこれまでの出資先は、以下の通りです。

Gaussy	倉庫ロボットのサブスク事業“Roboware”、倉庫スペースのシェアリング事業“WareX”を展開する物流 DX サービス企業。2022 年に資本業務提携。
株式会社 KURANDO	倉庫内業務を可視化する物流 DX 支援システム「ロジメーター」を、プロロジスと共同開発。2020 年に資本業務提携。
株式会社タイミー	スキマバイトサービスを提供。物流施設の入居カスタマーの人材確保をサポートする目的で 2019 年に資本業務提携。
株式会社 ウィルポート	ラストワンマイル配送支援のクラウドシステムを提供。配送効率化によるトラックドライバー不足の解決をめざし、2019 年に資本業務提携。

ハクオウロボティクスについて(<https://hakuou.co.jp/>)

ハクオウロボティクス(本社:東京都荒川区南千住、代表取締役:鈴木 智広)は、物物流業界に先進的な自動化ソリューションを提供するロボティクス企業です。2022 年 12 月に設立され、「『モノを運ぶ』のない世界へ人が物を運ぶ手間をなくし、あらゆる物流作業を革新する」をミッションに掲げ、主力製品である自動フォークリフト AutoFork の開発を行っています。AutoFork は、納入後、現場ですぐに使える手軽さと、高度な自動運転機能を備え、物流現場の効率化と安全性向上に寄与します。ロボット技術の活用を推進し、世界中の物流の革新を目指しています。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://ma.prologis.co.jp/form_inquiry_media